

# いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

6月号 発行 平成24年6月29日



## 東日本大震災関連



### いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の5月の農林畜産物の放射性物質モニタリング調査結果をお知らせします。

調査した29品目91検体のうち、20品目は全ての検体で検査機器の検出限界値以下でした。基準値内で検出があったものは、7品目7検体、基準値を超えたものは、山菜類のわらび、こしあぶらの2品目3検体でした。基準値内で検出されたのは、山菜類ときこのこからであり、山菜類以外の野菜や畜産物・原乳では検出が認められませんでした(表1、2)。6月20日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が規制されているのは、ユズ、たけのこ、ぜんまい、たら芽(野生のものに限る)、わらび、こしあぶら、野生きのこ、栽培きのこの原木なめこ(露地栽培)の8品目、また加工品では乾シイタケ(平成23年度産 P5参照)が出荷自粛となっています。

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま 新発売。」の農林水産物モニタリング情報で簡単に検索できますので結果をご確認ください。また、この調査結果は、地産地消推進店、地域産業6次化ネットワーク会員、グリーンツーリズム関係者などにお知らせしています。

(表1) 農林畜産物の調査結果(5月)

放射性物質が検出されなかった品目と検体数	放射性物質が検出された品目と検体数		計
	規制値内で検出された品目と検体数	暫定規制値を超過した品目と検体数	
20品目 81検体	7品目 7検体	2品目 3検体	29品目 91検体

(表2) 1点も放射性物質が検出されなかった品目

キュウリ(施設)	キャベツ	ニラ	豚肉
ミツバ(施設)	ダイコン	ニンジン	鶏卵
サヤインゲン(施設)	ダイコン(施設)	ネギ	原乳
葉ネギ(施設)	サニーレタス		
ホウレンソウ	サニーレタス(施設)		
アスパラガス	アスパラガス		
サヤエンドウ(施設)	スナップエンドウ		



### 「ふくしまの 春の香りを楽しもう！」 県内キャンペーンが 実施されました

5月25日(金)、26日(土)の2日間、「がんばろう ふくしま！」運動の一環として、「ふくしまの春の香りを楽しもう！」県内キャンペーンを福島県主催により実施しました。

マルトショッピングセンター中岡店において、25日は14時から、26日は13時30分から約2時間、「ふくしま 新発売。」を合い言葉にくじ引きの抽選を行い、両日あわせて450名の方にいわき産のミニトマト、会津産のアスパラガスをプレゼントしました。

基準値を超えていない県産農産物に対しても消費者の信頼が回復しておらず、消費が停滞している現状にあります。子ども連れの主婦の参加も多数あり、旬の新鮮な野菜とあって、当選者には大変喜んでいただきました。

未来へ向けて動き出している福島のと農林水産物のモニタリング情報検索サイトである「ふくしま 新発売。」をご覧ください。ことにより、風評被害の減少が期待されます。みなさんの応援をよろしく願います。



(当たるといいな！)



(合い言葉は「ふくしま 新発売。」)

未来へ向けて  
動き出している  
ふくしまの今と  
農林水産物の  
モニタリング情報  
検索サイト

ふくしまから  
はじめよう。

ふくしまの最新情報をお届けいたします。

ふくしま 新発売。

www.new-fukushima.jp

(福島県 農林水産部 農産物流通課)

(モニタリング情報は  
こちらをご覧ください。)

## 一般情報



### いわき木材流通センター 創立17周年記念市が 行われました

5月17日(木)、いわき木材流通センターの創立17周年記念市及び記念式典が、いわき市遠野町にある同センター内で行われました。

記念式典には木材関係者ほか約50名が出席し、根本福島県森林組合連合会副会長のあいさつの後、戸井田いわき農林事務所長が、同センターが長年にわたる素材の流通を通して県産木材の円滑な供給に努められたことに対して謝意を述べるとともに、県としても福島県復興計画に基づき森林・林業・木材産業の再生に取り組むとのあいさつを行いました。

記念市では、原木2,500m<sup>3</sup>が販売され、スギ3m柱材は立方9,600円、3.65m中目材は立方11,000円前後での取り引きとなりました。



(記念市の入荷状況)



### 森林講演会が 開催されました

5月18日(金)、いわき新舞子ハイツにおいて、いわき市財産区議会管理会連絡協議会の主催により、森林の放射性物質による汚染の概要と除染に向けての考察を内容とした「森林講演会」が開催されました。

独立行政法人森林総合研究所立地環境研究領域長の金子真司氏が講師となり、森林総合研究所が平成23年8-9月に川内村、大玉村、只見町で行った森林内の放射性物質の分布調査及び除染効果調査の結果を中心に紹介され、要点として、森林の放射性物質の分布は、落葉層に多く、次いで樹冠部(特に常緑樹で)、樹皮、深さ5cmまでの土壌の順で少なくなっている。辺材、心材、深さ5cm以下の土壌では、放射性物質質量はないか少ない。落葉樹林では、落葉層の剥ぎ取りを実施することによる除染効果が大きい。常緑樹林では、葉などに放射性物質が残っているので、3年程度落葉層剥ぎ取り作業を繰り返す必要がある等が示されました。また、森林内の放射性物質の動態に関しては、今後の調査・研究を待たなければ不明な点が多いとのことでした。

約100名の市民の方々が聴講し、この問題について認識を深め、除染について考える一助となりました。



(森林講演会の様子)



### 田んぼの学校 開校式・田植え

「田んぼの学校」とは、一年間を通して水稻の作付けから収穫までを体験する環境教育事業で、今年度は、いわき市立赤井小学校と連携して主に5年生児童65名を対象に実施していきます。

まず5月22日(火)に開校式を開催しました。赤井小学校の小泉教頭先生や地元協力農家の根本俊男さんから挨拶をいただき、一年間の活動計画を紹介して、田んぼ



の学校がスタートしました。

当日は、開校式に引き続き田植えを実施する予定でしたが、あいにくの雨のため、2日後の5月24日（木）に順延しました。この日は、うって変わって暑いくらいの快晴で、まさに田植え日和となりました。根本さんから田植えのやり方について説明を受け、その後各児童が実際に田植えを体験しました。最初はおっかなびっくりだった子供たちも、始めてみればみんな夢中になって植えており、終了後、児童数名から感想を述べてもらいましたが、「実際にやってみると楽しかった。」ほか多くの声が聞かれました。最後に、根本さんから「みんなの植え方で稲の育ち方が違うので、これから見ていきましょう。」と講評を受け、田植えを終了しました。



（開校式の様子）



（田植えをする様子）



## 福島県 食品表示ウォッチャー 委嘱状交付式及び 研修会を開催

5月29日（火）、県いわき合同庁舎において平成24年度食品表示ウォッチャー委嘱状交付式及び研修会を開催しました。

福島県食品表示ウォッチャー制度は、消費者の方々に日常の買い物等を通じて食品表示状況を継続的にモニタリングしていただくことにより、食品表示の適正化を図ることを目的とするもので、平成24年度は、県全体で34名、いわき農林事務所管内では8名がウォッチャーに委嘱されました。

当日は、いわき農林事務所の桃井企画部長から出席したウォッチャーに一人ずつ委嘱状を交付した後、県農林水産部環境保全農業課職員を講師として活動内容及びJAS法に基づく食品表示についての研修が行われました。

ウォッチャーの方々には、平成24年6月から平成25年3月までの間、日常利用する店舗において、生鮮食品の名称や原産地などの表示状況を確認し、定期的に県に報告していただきます。

その結果は、食品表示の適正化の確保に反映し、消費者の皆様の食品選択に役立てられることとなります。



（委嘱状交付式の様子）



## 平成24年度いわき地方 農薬適正使用推進会議を 開催しました

6月8日（金）、県いわき合同庁舎において平成24年度いわき地方農薬適正使用推進会議を開催しました。

本会議は、いわき地方における農産物生産の農薬適正使用を推進し、消費者の皆様へ安全・安心な農産物を提供することを目的として毎年開催しています。

平成18年度のポジティブリスト制度導入以降、いわき農林事務所では、関係団体と連携し、農薬の飛散低減対策をはじめ、住宅地を含む周辺環境への配慮等、農薬の使用に当たって注意喚起を行ってきました。今年は6月10日から9月10日までの3か月間、講習会や啓発活動等による農薬危害防止運動が実施されます。

県内では6月9日に梅雨入りし、農作物の病虫害防除の重要な時期に入っています。いわき農林事務所は、今後とも生産者と一丸となって、安全で安心な農産物を提供していきます。



(会議の様子)



### 平成24年度いわき地方 有害鳥獣被害防止対策会議 を開催しました

6月8日(金)、県いわき合同庁舎において平成24年度いわき地方有害鳥獣被害防止対策会議を開催しました。本会議は、いわき地方における有害鳥獣による農作物被害の軽減を図ることを目的として毎年開催しています。

近年、いわき市では、山間部から平坦部にかけてイノシシの出没が増え、農作物への被害が多くなっています。特に水稲への被害が多く、注意が必要になっています。

会議では、地域全体で農地、集落をまもるため、関係機関・団体が連携して、生産者へ向け一層の注意喚起を行うほか、補助

事業の活用による電気柵導入の促進などを確認しました。



(イノシシに注意してください)



### ふれあい農業講座が 開催されました

6月11日(月)、いわき市立山田保育所において、いわき農業青年クラブ連絡協議会主催による「ふれあい農業講座」が開催されました。

いわき農業青年クラブ連絡協議会では、消費者に農業への理解と関心を深め、放射能に対する正しい知識を得て頂くことで、東日本大震災後に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故での放射能被害による農作物への「風評被害」を払拭し、いわき農業の復興に繋げるための活動を行っています。そのような中、今年度は、保育所及び幼稚園の児童とその保護者を対象にした「ふれあい農業講座」を各施設で年4回程度開催することになりました。いわきで野菜を育てて食べることで風評被害の払拭を目指すものです。

今回の講座の内容は、クラブ会員が講師となり、児童に対して野菜づくりの注意事項を説明した後、クラブ会員が児童と共にプランターにミニトマト、キュウリ、ナスの苗を定植しました。児童は、慣れない作業を保育士とクラブ会員の話を聞きながら熱心かつ楽しみながら行っていました。定植後、児童は、苗が無事に育つことを祈りながら、それぞれのプランターに水やりを行い、児童とクラブ会員とが共にふれあい講座となりました。山田保育所は今回が1回目、今後は、7月、9月、10月に講座を開催する予定です。



なお、今年度は、平みどり幼稚園（平窪）  
においても同様に4回開催する予定です。



（小さい手で真剣に取り組みました）



（教えてもらいながら）

## いわき農林事務所からのお知らせ

出荷の自粛をお願いしている平成23年度産の乾シイタケと  
平成24年度産の取扱いについて

平成24年3月31日までに加工された乾シイタケが出荷自粛の対象  
となっています。なお、平成24年4月1日以降出荷する乾シイタケは、き  
のこ生産資材（ほだ木・菌床等）の放射性物質検査及びきのこ本体の放射  
性物質検査を行い、基準値内であることを確認したシイタケを原料とし、  
出荷前に放射性物質検査を行い、基準値内であることを確認した上で出荷  
をお願いします。

「東日本大震災」  
及び「原発事故」からの  
復興のために！



皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
（県いわき合同庁舎 3階）  
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196  
U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>  
E- Mail [iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp](mailto:iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp)

